



市長モリテツの  
ほっとトーク

January 2022

## 市民病院の今、そしてこれから

—市民の大切な命を救い、守る—

三田市長 森 哲男

昨年12月の市議会本会議で、三田市民病院の改革について、3人の議員から活発な質疑がなされました。その中で、市民の間でさまざまな情報が流れているが、正確な情報と市の考え方を教えてほしいとの要望を受けました。

現在、「北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会」での議論の経過を注視しており、討議内容は「広報さんだ」でも3回掲載しました（8月号、10月号および12月号）。議論がまとまり報告書が出されましたら、市民病院改革に関する構想（案）をまとめていきます。

さて、市民病院は、平成28年度に策定した改革プランにおいて、救急医療などを担う急性期病院として在り続けることを明記しました。(1)市民の皆さんが日常でお世話になる身近な診療所（かかりつけ医）と密接に連携し、「急性期医療」（緊急性を要する重篤な症状など）に対応する医療（確保）を確保することが、最大の使命です。

そして、(2)大規模災害時にも必要に応じた医療を行える機能や、(3)コロナウイルスのような新興感染症にも十分対応できる独立した病棟も必要

です。さらには、(4)若い世代の安心な暮らしに必要な小児・周産期医療を行う施設・体制づくりにも注力します。

これら4つの目標を達成するためにはいくつ課題がありますが、中でも「医師確保」は最大かつ深刻な課題です。急性期医療には医師の確保が不可欠であり、若い医師が働きたくなくなる魅力ある病院であることが重要です。長く信頼関係を築いてきた神戸大学からは400床以上の病院でないと医師の派遣が難しいと言われていきます（三田市民病院は300床）。

現在、検討委員会では、三田・北神地域の急性期医療を確保するための方策について、①現状維持、②機能分担、③診療科連携、④再編統合とそれぞれの場合のメリットやデメリットを想定し、検討しているところであります。併せて、今月から市内の各地域で「市民意見交換会」を実施していきます。意見交換会のご意見も参考にさせていただきますながら、「検討委員会」の報告書内容を十分に吟味して、市民の大切な命を守るため、市の考え方をまとめていきます。皆さんのご意見を聞かせてください。

### Mayor's Photo Diary



11月16日 神戸大学大学院生が地域課題解決に向けたアプリを開発し、報告会を行いました



11月25日 小野地区の自家用有償旅客運送運行開始に伴う車両引渡し式を行いました



11月29日 女子硬式野球チーム兵庫ブルーサンダーズが表敬訪問。今シーズンの報告をしました